いらつめ

第五十二号之

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

いらつめ第五十二號目次（明治卅三年五月十日）

●文藝美術……いとまごひ（俳句、和歌、唱歌、淨瑠璃）
松枝卷江＝永島よし子＝根本重藏＝羽柴芳江＝福富翠亭＝横山ちせ＝菊の舍露子＝井野たみ子＝柳巷＝花のやまと＝伊藤直太郎＝撫箏女史＝山崎ひで子＝黑江直二＝有本八光＝梅花女史＝越の舍＝松尾ひさ子＝碧溪散史＝水野秀子
○若葉蔭の假寐（俳句、和歌、唱歌、文章）
神谷文子＝蘆月＝福富翠亭＝松枝卷江＝旭馨女史＝菊のや露子＝香圃女史＝柳巷＝朧月子＝伊東曉子＝賤の女＝わしの＝木本光三郎＝菊野幽芳＝無何有仙史
○日本繪畫の未來……外山正一

社告及び社則　いらつめ一部並製金二錢五厘郵税共金三錢、十二部金二拾九錢郵税共金三拾五錢、二十四部金五拾七錢郵税共金六拾九錢、三十六部金八拾四錢郵税共金壹圓〇二錢、四十八部金壹圓郵税共金壹圓二拾四錢〇別製一部金三錢五厘郵税共金四錢、二十部金六拾五錢郵税共金七拾五錢、五十部金壹圓六拾五錢郵税共金壹圓九拾錢〇並別両製共前金領收の上で無くてハ差上げぬ事〇府内に限り無郵税〇毎月二回（十日二十五日）發兌〇金子御差し送りの手續きハ郵便小爲替なれば拂渡郵便局とある處に神田郵便局と記し受取人欄内に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事〇郵券代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割増しなれは妨げ無い事〇見本は五厘切手で並製五錢別製七錢領收の上差し上ます〇廣告料一行金八錢、割引無し

從第四十八號至第五十七號十部版權所有
明治卅三年五月四日印刷　明治卅三年五月十日出版
發行人　東京市神田區平永町九番地居住　山田武太郎
印刷人　東京市本郷區駒込西片町拾番地居住　山本鑑之進
發行所　東京市神田區神田平永町九番地　成美社

本號には暇乞と題する諸文藝中よも碧溪子の新作淨瑠璃と近頃の好品まゝ若葉蔭の假寐と題する文藝及び博士外山正一氏日本繪畫の未來といふ論文猶又次號よと京城最新流行其他さま〴〵の事が出て居ます

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文藝美術

第十八回懸賞文藝應募得点

題　いとまごひ

○俳句

美しき花の名殘りやいとまおひ……松枝霜江(ヒツチカ)

出代りや牛よ物いふいとまおひ……同　上

短夜といふまげ客やいとまごひ……同　上

出代りの笑顔殘すやいとまごひ……同　上

ゆくかりや空よいとまをつぐる聲……永島芳(ヰアリ)

以上五句無賞

出代りや涙さきだついとまごひ……松枝霜江(ヒツチカ)

いとまごひ顔でしにけり不如歸……同　上

いとまおひするや門迄月のさす……同　上

いとまおひ忘れて戻る師走かな……同　上

以上四句いらつめ一部

いとまおひして傘のるや夕時雨……松枝霜江(ヒツチカ)

夜もすがら蛙の聲やかしま立……永島芳(ヰアリ)

出代りやそしまる〻身のいとまごひ……同　上

右いらつめ二部

以上二句第三等賞

かれ柴にわかれの霜のしろさかな……永嶋芳(ヰアリ)

右第二等賞

○和歌

雲井まで海山遠くへだつとも
けふのこゝろを君わすれそ……根本重瀬(フクレイ)

春風はかたやをそよと吹きとめて
涙の雨をのこしてぞ行く……羽柴芳江(ウセン)

今更に惜しむ別れのをしまれて
のはす言葉もなほくもるかな……福富翠亭(トウケイ)

以上三首無賞

今いしも出でぞ行かんけふ明日と
いひつゝとまる旅路あらねば……横山ちせ(ヒカ)

定めなき旅路なれどもかへるよは
やどもわらしとたのめたのまし……同　上

しばらくのわかれをいたくをしむ哉
やがてものへるまれや何あり……同　上

櫻花ちるをいとはぬもの〻夫も
さすがわかれはかなしまれつゝ……菊のや露子(オホサカ)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

別れてハまたあふてとも嵐山

幾度花ハさきにほふとも……井野たゝ（ヒウガ）

おに神とおちぬたけをもいとまてふ

言の葉くさよ露ぞおきける……花のやまもみ（イハキ）

まけててし露のあとゝやいひあさん

わかつ袂におつるしづくと……柳巷（トウケイ）

もろともにつきぬなてりを時鳥

今宵一夜をなきあかすとも……伊藤直太郎（イブリ）

以上八首いらつめ一部

いづるとも心ハあとのかぞいろに

つゝふがあのれと暇乞ひけり……菊のやつゆ子（オホサカ）

君にそふつらきわかれの旅路より

かそこそむらん春の山ざと……井野たゝ（ヒウガ）

別るゝハあふてじめぞときゝつゝも

そゞろ涙にそでぞぬれける……撫箏女史（ミノ）

明日よりハたれとかたらんみよし野の

花に遊びし春のむのしを……伊藤直太郎（イブリ）

以上四首いらつめ二部

おしあへてもろき別れの涙かあ

ますらたけ男もやさし男のこも……柳巷（トウケイ）

一とせにまたと歸らぬ旅あれば

かをりとゞめて行けやはる風……羽柴芳江（ウセン）

別れゆくいまはのきはとありぬれた

つれあく見えし人も戀しゝ……山崎ひで（トウケイ）

今ハてやいとまてひさへ筑紫潟

いそぐ舟出よこゝろせかれて……福富翠亭（トウケイ）

つげかねしわかれを袖にふく風ハ

身にも通りてあはれありけり……黒江直二（ヒウガ）

別れをばつげの小櫛のわけかねて

こだるゝものはこゝろありけり……同上

海山をへたてゝぞもくまのれ路と

へだてぬ友よをしむけふかあ……同上

秋の夜ハともにあがめし江の月も

いまハわかれのかげを照らせり……菊のやつゆ子（オホサカ）

まさきくて歸りませとの外にまた

君とおくらんはむけもあし……有本久光（イハシロ）

以上九首第三等賞

わかれうきけふの旅路ハ嬉しくも

歸り來る日のはじめあるらん……黒江直二（ヒウガ）

常々の君がなさけハまのれうき

けふの旅路のろでにこそしれ……同上

以上二首第二等賞

故郷よかざる錦を織り出す
はゝのなみだの糸ぞかなしき……………有本久光(イハロ)

右省査以外

○唱歌

(イ)

生者必滅、會者定離　この世の常と知りつゝも、
なほもろそでの濕ふハ　したしき友のいとまごひ。

右無賞　梅花女史(ホヤカト)

(ロ)　梅峯女史(ヨノ)

まなびの道のしるべぞと　たのみし君に別られも、
いろかまさりていと遠き　花のみやこよあそびなど
あだしごゝちに迷ふらん。
たゝあさけなる一言ハ　をしへを膽に銘じつゝ、
ふみハはやしにわけいりつ、　またのあふせと樂しまん、
またしら君よいざゝらば。

(ハ)　同上

やまひくし、　ちゝのさのめぐさよ比せバ。
うさわるし、　たらちねのあさけなもへと。
あゝあはれ、　なつかしき里の家をいでゝ。
ちゝはゝに、　わかれもくわがこゝろこそ。

(ニ)　越の舍(トウケイ)

春ごとよ春ハ彌生のものなれや。花ごとに花ハ櫻にのみの
ぎる。むさし野の墨田の岸の花ごゝろ、はがらかに照す
日影にさそはれて、はのぐとあくる曾のいろ香よハ
うらゝゝある空も霞める見えけり。浮世てふ世ハあさましき
ものなれや。人といふ人は葉末れつゆかろも。ふる里の
こしなにのこるはゝき木ハ　つもりてハ深雪に幹を折られ
てか、春くれども之出でかねしなどつれよ　小雨ふる軒
端さびしく音をしのふ。うたてやの生者必滅會者常離
あぢきなき我身に今ぞつまされて、はるけくもわかれぐく
の旅衣、ろでのさをしぼりつるとも仇名草。返りくる時
しまちわびあたにさく　仇し名をやよ立なせそ立あすな。

右評　趣向ハ勝つてゐますが題意に違いてす。

以上三曲いらつめ一部

(ホ)　花のやまもみ(一)

玉くしげ兩親ゐます古里と　けふを限りにあさまくら
八重のしほ路を越行かバ　誰かつかへんあすよりハ。　日

毎まちえしおもかげを　錦のころもきかざりて　歸へりこむまですべもなし。　事なりはてゝ歸りなば　其よろこびは如何ばかり。さはさりながら露よりも　もろき玉の緒かひなくも　たえなむいのちにつらからむ。　うらみなしけるいとまでひこそ。

右いらつめ一部

（へ）　松尾ひさ（サカヒ）

いとまでふ見れことばなし、　云はるゝ君もことばなし。
言葉なき身の握手かな、　袖にちりくる花のつゆ。

右第三等賞

○文章

（イ）　碧溪散史（オオサカ）

陸地にはまかねわたちをすべりはしる車あり。　水の上よれむそ湯氣のたぎり行る船ありて、　あら浪をわけひらき小々波をのりこえ、高き峰をも廣き野をもまたゝきの間に千里とふみわたるまうけ備りて、たよりよき世よしあれば國土のうちはいふもさらなり、こと國に旅寐せんも杖をらうずにて歩をあやそゝ、かち枕に夢を破り、わかしまに心をいため、飯うゑ息あへぐのうれひを知らず。身のつかれもなく、意の

まゝあるこそこよなき幸なりけれ。　さるからに君がおもひたちて先つ東の京にのぼり、そのうへ外つ海につらなれる國々をも巡り遊ばんとすなるこゝろざしそいとけなけにいさましくぞある。　さればおしとゞむるよしあらそ。　ともにたすけすゝむるゝになん。　二十とせのむかしはみやこへ上るさへも百三十里は途中を五十三のむまや路の驛々をとほり過ぎ、十日あまりの日數を費やしたるにそを一夜のうちに到り着くぞ、彼の舟車の便りにてやすへもやすくありける。　さはいへわかれをしまるゝはなべての人のこゝろにて、昔も今もかはるへくもあらず。　ましてやなれむつびたる中はなほさらかなしくぞある。さりとて手とり袖ひきて、打ちなげかんはめゝしくて、世におくれたり。　胸そこらふるそ男めくめる。よて何ごともいはでやみなん。　みやこに到り着きたらんには恙さはりなく平らけく安らけきふしを稲妻のたよりにつてゝとく〳〵しらせよかし。　のちのかたらひ事はかたみよむまやつらひにいひしらせ聞しりてん。

右いらつめ一部

（ロ）　松尾ひさ（サカヒ）

「叔母さん御免を蒙ります。　暫くと申しましても三年

の月日、隨分お達者で……」

「お前もね勉強と云つても身体が…おゝ身体も餘程大きくおなりだつたが幾つ？、十六—　左樣かえ、それでは十七、十八、十九まで三年たつてもお嫁入には後れるといふ年でもなし、身体を十分大事にしてね…手紙は折々出して安否をしらしておくれよ。　呉々も之は頼んで置きますよ…そしてこの頃は彼地の學校の生徒さん達に嫌な噂もあるとか—之は先刻もいひましたね。　はゝ、年がよるともう……………」

「はい—　何彼と氣をつけまして叔母さんはじめお母さんにも御心配をかけませんやうに………」

「姉さん早く歸つて來て下さんせよ。　お歸りにはいゝ御土產をねエ」。

「お好きな錦繪を澤山持つて來て上げましやう。　叔母さんぞきでは………」

愛らしの櫻も何れか。　しら雲と湧せて梢も今は早や茂り行く一樣の綠涼しく。　唯僅に形見の色を—垣根に匂ふ櫻桃の幾花を留めてゐる計り。　春淺からぬ此時—枝折戶のあたり—見れど春深からぬ一人の少女　その老婆と子供に向ての應答、辭宜から推せば云はずとも—此少女も住み馴れた家山をあとにして他鄉へ旅立つそのいとまごひに來たのです。とめ度のない叔母の言葉も襟正しう聞く殊勝さ—床しさも幾倍か。　罪ない子供の請求にまで言葉の花のかをりを別けて、別ける名殘の袖、いつの間？、、、、、、、いとおしい縞柄をそこね、老—暖かき玉の雫の其痕！

（八）

水野秀（大阪）

千紫萬紅散り果てゝ、餘波を守る一点、二点、柳の糸のいと長く怨をひいて地に入りなん同じ哀の春の暮。　年來日來望みし學びの旅も鹿島立の日となれど勇氣活潑消え失せて、旅裝をあすも懶—母の膝下近く進み寄り、

「お慈母さんこれよりまゐります。　御用心遊ばして御機嫌よう御待ち下され……」

常なれば涙に濕はんに、母は暇と惜まれ、泣かれては…あき心と張り込んで、漸くいひしものゝ

「おゝ氣をおつけよ。　初めての旅ではあるし…勉強して早くお歸りよ……」

胸一盃の悲しさの嵩增して、思はず溢るゝ不時の雨。　さとられてはと手巾もて拭ひ、

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

「妹やお慈母さんを大切にされしよ」と思ふ半分謂ひも得ぜ、またもや心に浮び來る。　若しも慈父の存生なれバ留守を案じることもなく、母も妹もさぞ掛念はすまいもの。　せめて世が世なれバかくあるまじきもの……あゝ亡き父の慕しさ！　奥の佛間に走り入り、位牌に向ひあゝ慈愛深き亡き父！……生ける人に物いふごとく、懇よいとまこひして立ち出で、青葉をそよぐ風に送られて停車場にいたり、暫く發車をまつ内に母子諸共の哀別離苦―發車の報を最期の合圖に……立つて目送る母も早や見えぬ―終始膝下に侍り孝養を盡すべきに、學ばん爲に數年の孝養を缺かんとは…研磨の功を積み、志を遂げ、美徳を錦衣に裹み、母を慰めんことを肝膽に刻銘す。　縦ひ吾身は不肖なれバとて―立て初むる志だに撓まずバ、龍のあぎとの玉もとるべし。

右二章第三等賞

○淨瑠璃

（イ）　菊野幽芳（イメラキ）

夫れ名句と吟ずれバ羅生門の鬼もなどてか之に和せざらん

○火花閃めく戰場に數万の軍を物ともせぜ、鬼をもひしぐ勇將も物は哀れはなるよしぞや。　あるに甲斐なきこの身ぞと、あこちなみだにくづ折るゝ妻の樣子は不憫さに矢竹心のもゝふも同じ心の泪川、せきとめかねて目もうるむ。　よわる心を取直し「又しても悟れぬか。　戰場に身を捨つるは武士の本懐、そなたも我妻となりし上はかバかりの事よも辨へぬこともあるまい。　夫れに何ぞや此期にのぞみ今更の樣に嘆くとは、さてもそなたは此身をば不忠の者となす所存か。　さゝ早きなき」と云ひ放つ言葉は荒く見ゆるとも、これぞ此世のいとまごひ。　戰場の露と消えゆく身の上は哀別離苦の悲しさもさすが身を切るばかりなり。　かゝる折しも納戸より走り出づせるいとし娘の、年は五つか六つの花、梅花に雛の鶯や、なきうつぶせし母親の容子見るよりかけよりて、譯もしらねど共涙　母は涙の顏をあげ「妾とてもものゝふの道をしらぬにあらねども御歸り遊バされしも昨日今日、あすをも待たぜ戰場へ今又御出なさるとは、其りやあんまりで御ざんぜう。　一日二日後れしとて不忠の者とはありますまい

○まして此兒もあるものを、いとしとおぼし給はぬか。　のう我夫」と許りにて後は涙の露しぐれ、娘もおなじぬれ羽鳥「とゝさんはなぜ歸つた許りで又遠い所へいかしやんぞ。　少しはかゝさんは云ふ事も御聞きなされて下されや―幼なけ

れど大見びて見ゆる己が子のいぢらしさ、いとしらしさも増鏡。曇りよくもる胸のやゝ死出の名殘にいま一度妻や我子にあひたさに戰の庭を脱けいでゝ、來りしこの身ハ中々よあげきの種と鳴海潟、岩よくだくる仇浪の寄せて返らぬ旅の空けふと門出といへバえにいもぬ心の切あさをうくともいざやまらま弓、八つにも足らぬ幼子が言葉の遠い所とハあの世の事の辻占や。　母ハ娘の背をなでさすり「よういふてたもッた。　これこちの人。　娘さへうくまでにいふものと、妾の云ふ事も少しハ聞いて下さんせ。　たつた一人の此稚子と不憫とおぼしたまハらバ暫しこゝに御名殘を惜ませたまへ」と夕暮の鳥も塒にいそぐあり「あれ鳥さへあの樣にかあい／＼と夫婦連小羽うちかはし行くものゝ男心ハさうしたものか。　つれあいわいな」と伏し沈む女心のやるせなさ。　男も悲歎に暮の鐘、折しも降りくる村しぐれ、あはれもいとゞまさるらん／＼

右第一等賞

第十九回懸賞文藝應募得点

題　若葉かげの假り寐

○俳句

目さむれバ蝶も飛びゐる木かげかな…………神谷文子（ゴヒン）

清水まで眠る小谷の木かげかな…………蘆月（オホサカ）

華胥國ハこゝにありけり若葉陰…………瀨富翠亭（トウケイ）

若葉にも假り寐の夢や吉野山…………松枝番江（ヒツナカ）

以上四句無賞

手枕よさす日の遠き若葉かあ…………松枝番江（ヒツナカ）

かり寐して花の夢さる若葉かな…………同上

以上二句いらつめ一部

凉しさや晝も夢見よ森の家…………旭馨女史（ヘイト）

右いらつめ二部

忠度のむかし慕ふや花を宿…………旭馨女史（ヘイマ）

右審査以外

○和歌

若葉かげ假寐のうひハ有明れ

かげさへ見えてほとゝぎす啼く…………菊の舍露子（ヘイマ）

羽音してそゞたハ見えず若葉のげ

假寐の夢をさます鳥の音…………花　月(オホサカ)

萌え出づるるりのしとねの若草に
かりねを結ぶ春の蝶かな…………香圃女史(イガ)

以上三首無賞

夢さめて若葉のいろを見るにつけ
おもひやらるゝ花ざかりかな…………柳巷(トウケイ)

茂り行く若葉のかげの涼しさに
まらきくも眠りけるかな…………蘭月子(キヤウト)

以上二首いらつめ一部

花さくらさかりとみしれぬハ玉れ
若ばのかのげうたゝねのゆめ…………伊東暁子(イロ)

心地よきわか葉の蔭のうたゝねに
ちりにし花のゆめやみるらん…………同　上

若葉のげうき世に遠く庵しめて
いくよかり寐の夢や結ばん…………賤の女(ナカロ)

以上三首いらつめ二部

桃櫻梅も若葉は一つらの
なさけの蔭に旅寐たのしき…………菊の舎霞子(オホサカ)

見し花はゆくへやいづこ若葉かげ
とふよしもなきうたゝねのゆめ…………伊東暁子(イロ)

散り果てし花の名殘の若葉かげ
ゆめにみるやとかりねする人…………同　上

憂きこともわすれし櫻は若葉かげ
かりねの夢に過ぎし花みん…………翠富翠亭(トウケイ)

鶯の老にし聲もわかばかげ
かり寐の夢に結びそへてん…………賤れ女(ナカロ)

以上五首第三等賞

○唱歌

（イ）　童野洞三郎(イヘシロ)

花もなようらみし風、　風もなにをしみし花、
散り果てゝ、吹きやみて、　人の聲音も長閑にありぬ。
自然の樣もゆたかに見えぬ　長き日わし茂る若葉、
木蔭しづかに假寐して、　結ぶ夢こそたのしけれ。

右無賞

（ロ）　木本光三郎(キヤウト)

咲きみだれたる櫻花　無常の風に散りしかど、
梢にのこる若葉のみ　夏の君をバむかへんと
まにくしげる深みなり。　くれなゐ色の目にあきて、

みどりをのぞむ時なれば　若葉かげこそたのしけれ。
あたゝかき日のあつくなり、あつくあるをば苦にやみて、
ころも着かふる時なれば　若葉かげこそすゞしけれ。
たのしすゞしにさそはれて、しらず〱も野に行けば、
鎮守のもりの葉櫻は　もとよしげれる若草を
おほひ自然の天幕を　つくりけるさへをもしろし。
夏のはじめも一しほと　ひとりおちつゝ打伏せば、
すゞしき風は膚をば　かすめて過ぐるこゝろよさ。
あらいづこよりか蝴蝶來ぬ。見れば白羽もうらわかく
はなのかをりを匂はせつ、風のまに〱飛びめぐる。
パラダイスとはこゝなるか、これは下界のものならで、
あまつゝふのひにならむやと　思へるうちにこの世より
はなれて暗き國にきぬ。それより後は神ならぬ
身のしるよしぞなかりける。やがて寒さにさまされて、
我にかへればこはいかに　衣はぬれぬ露のたま。
されども月は無情にも　ひとりすみけり大空に。
時計を見ればはり二つ　十二をさせる頃なりき。
ながく眠りぬわれしらず　若葉のかげのすゞしさに。
たちて衣紋をつくろへば、一聲きこゆほとゝぎす。

右いらつめ一節

右評　調は兎に角。意匠の高い作です

（八）

菊野幽芳

咲き匂ふ花の衣をぬきかへて、木々には若葉の初化粧、
日かげ静けきこのしたや　苔も緑の雫かも。
いさゝ小川の増し清水　草間くゞるもおもしろや。
彼方は野邊に舞ふ雲雀　聲も雲井にとゞくらん。
傍を飛びかふ雌雄のてふ　殘んは花を尋ねつゝ、
姿はいつしか消えうせぬ、殘る我身を蝶として。
若葉のかげのうたゝねに　夢は何處と迪るらん。
去年はさつきは夕涼に　螢狩りしもこゝなりき。
今年やよひは櫻時　昨日の事とも思ほえず。
いとしき君と只ふたり　花あさりしもこゝなりき。
若葉のかげのうたゝねに　たせる夢路ぞおもしろき。
賤の苧環くりかへし、ありし昔を今にして。
麥の葉風のそよ〱と　まどはを拂ふすゞしさよ
身はまたもとの身となりぬ、惜しや夢路の乘絶え。
静かに我身をもたぐれば　驚かされて飛ぶ蝴蝶
傍の草を離れつゝ、彼方の葉蔭に見えうせぬ。

右いらつめ二部

○文章

（イ）　無何有仙史（トクイ）

櫻ハ早や風のまに〳〵散り果て、水端の山吹や離れ薔薇も笑を初むる時節。　或朝獨り野遊を試みました。　木々の若葉ハ昨夕の雨に充分緑を染上げて、而も銀の露れ外ハ一つの塵をも止めぬ美しさ！　何時の程にか旭ハはや東れ空に顔を擡て居て、山の端の霞もやう〳〵晴れ往き、緑の森や草むらハ美しく旭のげゝにほふて居ます。　長閑な空ハ一面に青く渡て一つの雲の汚点もなく、空氣も既に生温かくあつて、あちこちの花から吐き出す美妙き香りを適度に調合して、優にやさしく薫り來る心地善さ！　裾に散る露も清く袖を吹く風も靜です。　向ふゝハ幾里ともなく田や畑が續て居て、其處にハ麥葉の青や菜の花の黄や蓮華草の紅等が入り交つて居る氣色ハさながら一面に花毛氈を布きつめた樣です。　鷺や水鶏の住家より流れ出て、葉がくれに其間を縫ふて往く小川の清らかさ！　私ハ其邊に緑の濃な枝をかざして立並で居る、柳の涼やかな木蔭の芝生の上ゝ、花玉ゝ作つて妹に遣らふと思ふて、途々摘んで來た菫や蒲英を一つばいに撒き散らして、其上に坐を占めました。　向の岸にハ黄金色に咲き重りし山吹が、　水端に添ふて川の面をさし覗いて居ますが、水に映る己が姿を見てハ笑みを含む風情です。　それを妬んでか、花の香りを誘ふ微風にもつるゝ柳の糸が時々輕く水の面を撫でますと水ハふるへる樣に波立て、忽ちに其姿を打消します。　今迄ハ樂氣に菜の花の上を飛びかふて居ましたが、日光の熱に恐れてか、此處へ飛び來る二つ三つれ胡蝶が恨めしさうに見ゆる花の顔ゝ戯れてハ、散りて流れ往く三つ四つの葩。　それと餌と思ふてか、小さな魚の跳る音。　其音に驚かされた鳥の睡むさうな啼聲もをり〳〵聞えます。　雲雀ハはや菫の塒を離れて青空に歌ふて居て、微かに聞ゆる田舍娘の歌や、牧童の吹きすさむ笛の音等を此方の森が打返す聲ハ流の水に從ふて遙の空に消えて行く樣子。　此處にハ總の物象が皆な靜でそして穩かです。　が、決して寂寞いのでハありません。　で、此等天然の美景と自然の妙音との外い、此仙境の樂を妨ぐる唯一つの聲も形もないのです。　騒しい心も此長閑な空氣に鎔化され腦れ塵も此靜な流に洗いして、心神ハ全く此美妙き光景の擒となりました。　天もなく地もなく彼もなく、我もなく情もなく、慾もなく身ハ浮世の外

に在る心地！　私は唯うつとりとして、携へて來たブックを枕に力なく其處に打伏したまゝ、快く造化の懐裡に睡りました。　其樂は到底俗人の想像の及ぶ所ではありません。暫く華胥に遊んだ後頓て啼く鳥の音に喚び覺まされました。見れば大陽ははや天に央して、軟な若葉は日光の熱さに萎れ果て、四方の葦花も力なげに頸垂れて居ます。　日蔭もはややうやく移り行く樣子。　思へば先きの樂も蘆生が邯鄲粟一炊の睡か、浦郎が釣一竿の夢に過ませんでした。僧も辛きは浮世です。

右無賞

外山氏の繪畫論は一讀の値が有ります故ちよつと載せました

日本繪畫の未來

外山正一

本邦繪畫の事を談するもの五里霧中にあり

方今吾邦繪畫の事を談する者は大約二流派に屬せるなり即ち一は外人の稱揚にをだてられて今日宇内の活美術は特り日本にのみ存在するなりと妄信するの族なり一は日本は尚ほ半開國なり西洋は文明國なり半開國の事物は其何にたるを問はす渾て文明國の事物には及ざるの理なり繪畫の如きと雖も固より然からざるはなしと只漠然たる臆斷をなしてとりすまし居るの輩なり然り而して兩流派畫人の製出したる繪畫を其誇唱する處と照らし看るに一は以て余輩をして宇内の活美術は特り日本にのみ存するものあることを信せしむる能はざるものなり一は以て余輩をして日本の文明強ちに西洋の文明に劣れるを悟らしむると能はさるものなり兩者の互ひに誇唱する所は如何がなるもその製出する所の繪畫に至りては尚ほ今日に[illegible]つては實に弟たり難く兄たり難きものと謂ふべきなり唯兩者の異なる所は日本畫は需要多くして西洋畫は需要少なきと則ち是れなり日本畫は賣れ口良く西洋畫は賣れ口惡しきと則ち是れなり然れとも賣れ口の良きは決して誇るに足らさるなり賣れ口の良きは職として代價の廉なるに由るものなり未だ遽かに日本畫の西洋畫に優れると證するに足らさるなり唯兩者の異なる所は日本畫は廉價なれとも西洋畫は高價なると則ち是れなり然れとも西洋畫の高價なるは決して誇るに足らさるなり其高價なるは繪具の高價なると多量の時間を要するとによるものなり美術品として日本畫に優れるの故には非さるなり何故に日本畫は西洋畫に優れるか曰く西洋畫は異物に似せると旨とすれとも日本畫に至つては物の精神を寫すと旨とせりと何故に西洋畫は日本畫に優れるか曰く西洋畫は濃淡自在なり遠近の寫法完全なりと蓋し何物の美術品と雖とも異物に由らさるものは有らさるならん何物の繪畫と雖とも濃淡寫景のミと以て盡くせりとすへきものは有らさるならん今の繪畫と談する者は實に五里霧中に在りと曰はずんばあるべかざるなり

今の畫人は畫題に困しめるものなり

今の繪畫と畫くものは日本流なりと西洋流なるとを問はず畫題に此上もなく困しめるものゝ如し日本畫と看ても油畫と看ても其證據歷然たり先づ油畫に就て之と言はん昨年不忍池馬見所に於て開會せる油畫展覽會に陳列せられたる油畫の如きは一として予の言ふ所盲言に非さると證せさるはなし一として今の油畫家さへ畫題に困しめるものなるとを證明せさるはなし畫題に困しまざるものは多量の日數と多量の繪具とを費やして彼れの如く神社佛閣のミを畫くとはせざるなり畫題に困しまざるものは彼れの如く枚一枚菜畑のみと畫くとはせるなり畫題の困しまさるものは彼れの如く意味もなき田舍家の畫を以て田舍の婚禮とは題せざるなり畫題に困しまざるものは

ハ彼れの如く死しゐ、雛と畫き死したる義家と畫きて恬然として大得意になり居るものにハあらざるなり現今開會中なる第三勸業博覽會美術館に掛け列ねたる油畫を看るべし龍に乗るの女神にあらざれバ海面に茫然たるの天人なり錦繪の琴彈きに非らざれバ「フォコアン」の燒直しに過ぎざるなり甚だしきに至つてハ明治美術會の衣桁菜畑をひた眞似に眞似たるものさへあるに非らずや貧に窮したりと謂ハざるべからず顧みて和畫者流の手際を看るに其畫題に困しめるハ洋畫者流と全く同一なり今第三勸業博覽會美術館中の出品に就て徵するに油畫とハ幾分か其畫題を異なれ畫題に窮したるの度に至りてハ少しも擇む所なきことと見るべし彼れの如く龍に乗るの女神にハ非らざるも鯉に乗るの女神に過ぎざるなり彼れの如く菜畑の畫にハ非らざるも古來常例の山水に過ぎざるなり彼れの如く錦繪の琴彈きにハ非らざるも唐紙(からかみ)繪の唐兒(からこ)人形に過ぎざるなり彼れの如く「フォコレン」の燒直しにハ非らざるも看ざる虎の鬪ひの畫に過ぎざるなり瀧に非らざれバ瀑布なり藤に非らざれバ櫻なり天人に非らざれバ鍾馗なり虎を使ふ羅漢に非らざれバ龍を使ふ羅漢なり肴屋の見世の如きものに非らざれバ鳥屋の見世の如きものなり植木屋の見世に非らざれバ八百屋の見世なり唐人の機織(はたおり)に非らざれバ公家の花見なり子供の漁りに非らざれバ高砂の翁媼なり戰爭の畫に非らざれバ犬追物の畫なり悉く有振れたる畫題に過ぎざるなり一として在來の畫題と燒直したるものに非らざるハなし窮せざれバ斯かる畫題ハ決して撰ばざるなり和流の畫人も洋風の畫人も互ひに我が流儀の優りたることと誇りハすれども其畫かく所の繪畫によつて之と評すべしと謂ハれたらんにハ其証明に窮せざるものハあらざるならん而して其畫題に窮したるの度に至つてハ兩者間に撰む所少しもあらざるなり

畫題撰擇に關する誤謬

現今油畫畫きの伎倆を察するに數年前に比すれバ大いに進歩したるものゝ如し今日吾邦の油畫畫きにハ或ハ意太利に於て學びたるものあり或ハ巴黎に於て學びたるものありよしや佛蘭西意太利等に留學せしことなき者と雖とも相應なる外國教師に就て數年間正則の教授を受けて洋畫を學びたる者決して尠しとせざるなり左れバ今日吾邦の油畫畫き中にハ繪具の用法濃淡の調和遠近の分配等に至つてハ稍や其心得ある者尠なからざる也蓋し吾邦油畫畫きの今日困しむ所ハ最早繪具の用法濃淡の調和遠近の分配等の點にハあらざるなり其困しむ所ハ全く畫題の撰擇に外ならざる也今の油畫畫きの撰ぶ所の畫題ハ建築に非らざれバ景色景色に非らざれバ歷史歷史に非らざれバ想像に由らざるハなし而して其此等を撰ぶハ職として其形を取るに過ぎざるなり思想を取るものハ極めて少なし故に其畫がく所ハ建築なるも景色なるも歷史的なるも想像物なるも全く無味なると死物なると免かれず殿堂ハ殿堂に過ぎざるなり菜畑ハ菜畑に過ぎざるなり軍人ハ軍人に過ぎざるなり死したる雛ハ死したる雛に過ぎざるなり美麗なる源氏の大將の畫も淺草奧山の生人形に彷彿たるの憾なき能ハざるなり田舍の婚禮ハ其題名を聞いて始めてこれが田舍の婚禮かと疑ハしめんとする如きものなり然り而して西洋の畫人ハ古今想像に屬する事物を畫がく者多しとハ吾邦油畫畫きの間に及へる所なり假令へハ美人を畫かく者あり天使を畫かく者あり童貞瑪利亞を畫かく者ありアダムイブを畫かく者あり「ヴィーナス」を畫かく者あり「ヘルキュリース」を畫かく者あり耶蘇を畫かく者あり惡魔を畫かく者あり自由を畫かく者あり壓制を畫かく者あり是に於て方今吾邦の油畫畫きにも想像的の物を畫かんと企つる者あり彼の「フォコノン」の燒直しの如き彼の龍に乗りたる觀音の如き彼の海面に茫然たる天人の如き何れも皆此企てよりして生じたる者ならざるハなし然り而して彼れ等油畫畫きが啻に實物を摸寫するに止まらずして想像物を畫かんと企つる其志の程ハ如何にも神妙なれども

是れと爲その始末是れを仕遂くるの方略に至りては實に笑はずんばあるべからざるなり今の油畫書きは少しも眞物に依らざるの想像物を畫がかんと企つるものなり今の油畫書きは美人と見たることも無くして美人を畫がかんと企つるものなり今の油畫書きは惡魔に出逢ひたることも無くして惡魔を畫がかんと企つるものなり今の油畫書きは神靈に觸れたることも無くして神靈を畫がかんと企つるものなり今の想像畫にして凡庸看るに足らざる者の多かるは固より怪しむに足らざるなり美人を見たることも無きもの丶畫がきたる美人は美人には非らざるなり惡魔に出逢ひたることも無き者の畫がきたる惡魔は惡魔には非らざるなり神靈に觸れたることも無き者の畫がきたる神靈は神靈には非らざるなり若し眞に美人に出逢ひ其人の爲めには命をも捨てん其人の姿は寐ても寤ても目に附きて忘れられずと言ふが如き場合に於て始めて能く眞正の美人を畫がくことを得べきなり而して其美人こそは實に想像の美人なれ凡そ如何なる美人雖も肉体の美人には多少不完全なる點なくんばならざるなり然れども其畫がく所は其腦中に在る美人の觀念其物なり肉体の美人を畫がけりと雖とも肉体の美人を畫がきたるには非らざるなり其畫がきたる美人の影像には肉体の美人に附き添ふたる不完全の點は附着せざるなり然りと雖とも其畫像は活きたる美人の畫像なり其目は物を看るの目なり其口は物を言ふの口なり畫像にして口をきゝたりと言ふ所のものは蓋し此の如きものならざるべからざるなり神靈に觸れ神靈に感じて徒ら有難たやなら尊ふとやと心根に銘じ信心全身に充滿したる時に際して畫がきたる神靈の肖像こそは則ち見る者をして必らず崇拜心を發さしめんとするの神像なるべけれ蓋し美人を畫がくは此の一法なるのみなり神佛を畫がくも亦此の一法なるのみなり此の如くにして特に此の如くにして始めて能く眞に高尚なる想像畫を畫がき出すことを得べきなり

チイブルスはナヤラの寺院に存在するジオットの作に係る麵包と魚の奇蹟の大畫はチイブルス「フランシスコ」會の施行の精神を示さんとせしものにならずや實有の美人に依らずんばラフイエルモマッデレナ、ストロッチの如き美人の肖像を畫がき出すことは出來ざりしならん實に彼のラフ、エルの「システイン、マドンナ」の如きはピッチ及びバルベリニの宮殿に保藏せらるゝ所のチフイエルの愛妾は肖像之と謂ひ傳ふるものに大いに似たる所ありて其美人こそは則ち彼の「マドンナ」の手本なりしと謂はるゝもはにならずやコルレッジオは優秀なる貞妻子は三大繪畫は如きは何れも皆其れ妻子は情況を描出したるものなりと謂ふにならずや父其聖女カテリンの婚姻と題したる畫の如きは其姉妹の婚姻を描出せるものなりと謂ふは說なり既往諸大家は流儀はみを墨守するを爲さずして一機軸を出だして專ら景色と肖像とを畫がきて新奇なる感情に訴へ更に優美なる快樂の道を開きたるチシアン其人は連峯雲に聳へ巉岩突兀として蒼天も近く强嵐時に起り嚴壯なる天景に富みたるアルプス山中に生れたる者にして思想高尚文化隆盛觀るもの聞くものとして善盡し美盡くせるブェニスに於て成人したる者にならずや而して其畫く所の神は宴會と稱したる畫の如きはその生れ故鄕なるカドールより借りたる景色と城郭とを以て完全せし然たるものなりと謂ふにならずやラスキン曰く「ラフイエルは「マドンナはウルビノ山中に生したるものなりギルランダジヨは「マドンナ」はフロレンス人なりベルリニの「マドンナ」はブェニス人なり此等大名人は一人として「マドンナ」とジユデヤ人として畫かんとしたるの企てを顯はさゞるなり」又曰く「若し英國の畫人にして英國今日の貴族院を基ひとして歷史上の人物を畫がくことを知らざる者は歷史を畫くことは出來ざるものなり十九世紀の英吉利娘を基ひとして「マドンナ」を畫がくことを知らざる英國の畫人は苟くも「マドンナ」を畫がかんとは決して出來ざる所ならん此れ實に予は熟心に明言する所之」と 想像物も必らず眞物に依らざらんばなる

べからざるなり純粋なる想像物ハ畫人自らも信ずること能ハざるものなり自ら信ずること能ハざるものを他人をして信せしむることハ固より出來さるなり今の畫を畫かくものハ寫眞の如くに實物の眞影を摸寫せんとするにあらざるより少しも眞物によらざるの想像物を畫がかんとして滔々たるの流弊を免かれざるものなり眞物の摸寫ハ術は見るへしと雖とも空想の繪畫に至りてハ全く取る所なきものなり眞物によらざるの想像畫ハ我れ之を見て感服すること能ハざるものなり如何でか他人の感賞を得ることを得んや古今名人の想像畫ハ一として眞物に依らざるものなきことを知らずして一意に空像を畫がかんとするハ今日の流弊なり

眞物に依るへし眞物の畫なるを要さず

畫ハ固より眞物に依らざるべからずと雖とも固より眞物の畫なるを要さゞるなりと否眞物の畫ハ眞の畫にハ非らさるなり畫ハ眞物によつて更に高尚なる想像と描出したる者ならずんバあるべからず畫ハ實体として外界に存在するの現象を摸寫したるものたるを要さゞるなり當時我れも人も外界に存在するものなぞと想像する所の現象を眞物に基いて製出したるものなるを要するなり畫人ハ他人ハ其心中に漠然存在するも如何にしてこれを表發すへきか如何にしてこれを判明の現象と爲すべきかと知らざる如き高尚優美なる想像を判明確實なるものとして畫に於て表發せしむるを知るものたるべきなり畫人ハ我れも信し人も信し得るものを畫がかずんバあらさるなり龍を畫がく者ハ眞に龍ありと信せずんバあるべからざるなり龍を畫いて喝采を得んか之と畫がく者も之を看るものも眞に龍ありと信ずるものならずんバあるべからさるなり地獄を畫いて喝采を得んか之を畫くものも之を看るものも實体的の地獄ありと信せずんバあるへからざるなり雷神と畫がいて喝采を得んか之を畫がく者も之を看るものも雷神あることを信せずんバあるべからざるなり極樂を畫がいて喝采を得んか之を畫がく者も之を看るものも實体的の極樂ありと信せずんバあるべからざるなり幽靈を畫がいて喝采を得んか之を畫がく者も之を看る者も幽靈ありと信せずんバあるべからざるなり自ら信せざる現象ハ畫がくべからざるなり自ら信せざるものを畫がいて喝采を得んとするハ愚の至りと謂ハさるべからず自ら信せざる者を畫がいて人をして之を信せしめんとするハ「モツリー」の至りなり古來龍を畫がき雷神を畫がき地獄を畫がき天人を畫がきて喝采を得たるハ畫がくものも之を信し看る者も之を信したるが故なり之を畫がける者ハ人よりハ高尚豐富なる想像を有し人より巧にこれを表發するの道を會得して當時世人の信心を滿足せしめ當時世人の感情に訴ふることと知りたる者にあらざるハなし即ち畫ハ眞物によつて而して身の想像を表發したるものならずんバあるべからざるなり

情機衝動せられたる時に非らずんバ畫くべからず

今の畫人ハ日の出を畫がかんと欲して日の出を眺めて而して之を描寫するものなり今の畫人ハ神社を畫がかんと欲して神社に到り精く之を点撿して細かに其諸部を摸寫するものなり然り而して其日の出ハ則ち一個の日の出に過ぎざるなり多量の繪具と多量の時間とを費したるにハ拘ハらず瓜繪の日の出と少しも撰ぶ所なきものなり神社ハ則ち神社の繪に過ぎざるなり貴重なる時間と高價なる繪具とを多量に費やして細かに寫影したるにハ拘ハらず一個彩色したる寫眞畫に異ならざるなり何故に其日の出ハ瓜繪の日の出と撰らむ所なきか只その外形を寫したるものに過ぎざれバなり何故に其神社の繪ハ彩色したる寫眞繪に異ならさるか畫人の目に映りたる所と其儘畫がきたるものに過ぎざれバなり彼の想像畫と稱するものゝ如きも亦同様のものに過ぎざるなり今の想像畫と稱するものハ大約線と彩色とを種々に分配したるものに過ぎざるなり看る人をして苟も感動せしむるが如き点ハ分厘も有せざるものなり彼の摸寫畫たり想像畫たり何故に斯く無味なるもの

なるや何故に斯く感動せしむるの力なきものあるや蓋し之を畫がける者其感動せる情緒を表發せるにあらずして只物の形を表ハし想像なきに只線を陳ね彩色を分配せるものあるの故なり畫人が自ら嗚呼壯觀なり嗚呼高尚なりと感激れ餘りに畫がきたるの日の出にあらずんバ日の出の畫にして人を感動せしむることハ出來さるならん畫人か自ら嗚呼壯觀なり嗚呼神妙なりと感動の餘りに畫がきたるの日の入りに非らずんハ日の入りの繪にして人を感動せしむることハ出來さるならん眞に天人を信じ眞に目に天人を見んとする如き畫人にして畫がきたるの天人にあらずんバ見る者を感動せしむるが如き天人を畫がかんことハ出來さるならん山を畫がくもよし瀑布を畫がくもよし日を畫がくもよし月を畫がくもよし然れとも之を畫くや之を見て感動の情胸裡に迫まりたる時に於て始めてすへきなり之を畫がかん爲めに殊更に之を眺めて僅かに其形を寫すが如きことハ決して爲すべからざる所なり我れ自ら信して人も亦信すべし我れ自ら感動して人も亦感動すべし線を寄せ彩色を分配して僅かに形のみを畫がきたるの畫ハ装飾畫に過ぎさるなり眞の美術畫にハ非らさるなり今繪畫にして装飾畫に非らさる者ハ將た幾許ありや畫人ハ信する所ありて始めて畫がくことを努めよ感動する所ありて始めて畫がくことを努めよ「インスピレイション」を得て始先て畫がくことを努めよ我れ眞に龍ありと思ひ得る如きものを畫がき出すに非らずんハ人をして龍ありと思ハしむることハ出來さるなり我れ眞に龍ありと思ひ得る如きものと畫がき得るにあらざる者ハ龍を畫がくを止めよ我眞に觀音ありと信じ得る如きものを畫がき出すに非らずんハ人として觀音ありと思ハしむることハ出來ざるなり我れ眞に觀音ありと思ひ得る如きものを畫がき得るにあらざる者ハ觀音を畫がくを止めよ我れ崇拜せざるを得さるが如き觀音を畫がくに非らざんバ人をして之と崇拜せしむることハ決して出來さるなり富士山ハ壯觀なり然れとも其壯觀の爲めに眞に感動せられたるものに非らさるよりハ富士山を畫がくを止めよ只これハ富士山なり富士山の畫と畫がかんと富士山を眺めて畫がきたるの富士山ハ人をして感動せしむること能ハさるものなり人をして眞に富士山に接したるの感情を起さしむることハ決して出來さるものなり世間無數の富士山豊淺草紙張の富士山に過ぎざるものにあらすや勇者に觸れて自ら其勇に感動せしことなき者ハ勇者を畫がきて人を感動せしむることハ出來さるなり名僧に接して其德に感したる者に非らさるよりハ名僧を畫がきて人を感動せしむることハ出來さるなり

此理ハ特り繪畫上に止まるものにハ非らざるなり詩人なれ僧侶なれ救世者なれ革命者なれ演說家なれ役者なれ能く人と感動せしむる者ハ能く人心と靡拜せしむる者ハ自ら大いに感動し身に神靈の充滿したる如きものならざんバなるべからざるなり彼の名僧を見よ彼れハ自ら泣いて而して人を泣かしめ自ら怒つて人を怒らしめ自ら憂ひて而して人と憂ひさするにあらすや彼のデモスセニースハ何んの爲先に彼れ如く一世の人心を激昂するを得たるや何んの爲先に希臘人として飽たまでマセドンのフィリップに抵抗せんと決心せしむるを得たるやこれ他なきなり彼れハ自ら激動したるが故によく他人を激動せしむることを得たるなり彼れハ自らフィリップの暴戻を惡みたるが故に他人をして復た之を惡ましむることを得たるなり全身慈愛を以て成り立ちたるとも謂ふべき彼れ釋迦の如き彼の耶蘇の如きものにして始先てよく世の救世者たることを得べきなり全身炎火を以て成り立ちたるマホメットにして單身身と起して瞬時に天下を靡拜するを得べきなり彼のダンテーの「ザヘイン、コメデー」に於るミルトンの「パラダイスロスト」に於る作者自ら大いに感激せし所ありて而して之を著ハしたるものなるの故に其書ハ則ち常時天下の人心を大いに感動せしめたるのみならず今日に於ても尙ほ世人の一般に愛讀せる所なるなり

（未完）